

令和元年 11月27日

報道機関 各位

## 共同シンポジウム

### 「情報化時代の東洋学—デジタルアーカイブスの現状と課題—」開催

今日、インターネットの普及にともない、各地の文書館や図書館の目録データが電子化され、誰もが容易に文献資料の所在を知ることができるようになっただけでなく、古典籍の電子画像の公開が盛んに行われ、かつては容易に目にすることのできなかった原本の閲覧がすべての研究者に可能になりつつあります。こうした学術環境の変化は東洋学分野においても着実に進んでおり、電子化されたテキストデータや文献史料の電子画像をいかに活用していけばよいかという問題を避けて通るわけにはいかなくなっています。

シンポジウムでは上記のようなデジタルアーカイブスの現状と今後の課題について、3人の専門家に、主として東洋学との関係から基調報告をしていただくとともに、ご出席の方々と質疑応答を通じて、東洋学のみならず、情報化時代の人文学のありかたをめぐる認識を深めていきたいと考えています。詳しくは別紙チラシをご参照ください。

この企画は富山大学人文学部東洋史研究室と附属図書館、そして平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)「情報時代における中国学研究・教育オープンプラットフォームの構築」の共催で行うものです。

歴史研究やデジタルアーカイブスに興味をお持ちの方はもとより、一般の方や学生の聴講も歓迎いたします（事前申込不要・無料）。

つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学人文学部 東洋史研究室

tokunaga@hmt.u-toyama.ac.jp

共同シンポジウム

# 情報化時代の東洋学

ーデジタルアーカイブスの現状と課題ー

日時

2019年11月30日(土)  
13:00～17:00

場所

富山大学人文学部  
3階6番教室

報告1

二階堂 善弘 (関西大学文学部教授)  
「漢籍研究環境の変容と今後の課題」

報告2

矢野 正隆 (東京大学経済学部助教)  
「東洋学における史料論の再構築ーデジタル・メディアの位置づけー」

報告3

中村 覚 (東京大学情報基盤センターデータ科学研究部門助教)  
「デジタルヒューマニティーズの研究動向と技術紹介」

司会・進行 小島 浩之 (東京大学経済学部講師)

主催：富山大学人文学部東洋史研究室

共催：平成31年度科学研究費助成事業・基盤研究(C)

「近世中国の刑罰制度に関する総合的研究ー軍制との関係を中心としてー」(研究代表者：徳永洋介 19K1032)

平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)

「情報時代における中国学研究・教育オープンプラットフォームの構築」(研究代表者：二階堂善弘 B16H03351)

富山大学附属図書館

問い合わせ先 富山大学人文学部 徳永研究室 電話：076-445-6131(代) E-mail: tokunaga@hmt.u-toyama.ac.jp